

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 332

1986. 4. 18

福岡市東区箱崎 6 丁目 10 番 1 号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次

1. ライブラリプログラム開発計画募集方法の変更について.....	1
2. 昭和61年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集 について.....	2
3. 昭和61年度ライブラリプログラム開発計画について.....	2
4. 新規に登録されたライブラリについて.....	3
5. SSLⅡ/VPのFFT(高速フーリエ変換)ルーチンに おける障害について.....	4
6. 昭和61年度利用者旅費について.....	5
7. プログラム相談時間の変更について.....	5
8. MSSの貸出ボリュームについて.....	6
9. INSPEC収録雑誌データベースの更新について.....	6
10. ICAD講習会の開催について.....	6

1. ライブラリプログラム開発計画募集方法の変更について

本センターでは、ソフトウェアの充実を図るためプログラムライブラリの制度を設け、その拡充・整備に努めてきました。この中に、センター利用者にライブラリプログラム開発計画を公募し、プログラムライブラリ委員会での審議を経て、開発を依頼する制度があります。

従来、この公募は随時募集という形で行ってきましたが、このたびライブラリ開発のより一層の充実を図るため、下記のように募集方法を改めることにいたしました。

- ・年2回(前期、後期)公募し、締切の翌月の委員会で審議する。

募集締切 前期：2月末日(開発開始は4月1日予定)

後期：8月末日(開発開始は10月1日予定)

- ・各公募の1～2ヶ月ほど前にセンターニュースに募集案内を出す。
- ・年度毎(4月～翌年3月)の開発とする。開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請を提出する。

プログラムライブラリ委員会 委員長 伊藤猛宏

2. 昭和61年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集について

前項1により標記開発計画を下記のとおり募集します。ただし、今回に限り募集締切を下記のとおりとします。なお、ベクトルプロセッサ(VP)用のライブラリプログラムの開発も大いに歓迎します。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 昭和61年5月7日(水)
3. 応募手続 所定の申請書をライブラリ室(内線2523)まで提出する。申請書および募集要領はライブラリ室へ申し込むこと。
4. 対象課題
 - a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
 - b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発者はなるべく早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するよう努力するものとしますが、これら開発者の義務、開発に係る経費等の事項の詳細については、募集要領を参照してください。

(ライブラリ室 電(内) 2523)

3. 昭和61年度ライブラリプログラム開発計画について

本年度分として採用された開発課題は、下表のとおりです。

開発番号	課 題 名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
15.1	熱物性値機械計算汎用プログラム パッケージの開発	伊藤 猛宏 黒木 虎人 高田 保之 (九大・工) 加藤 泰生 宮本 政英 (山口大)	1986.4.1	180分	継 続
		茂地 徹 (長崎大) 本田 知宏 山下 宏幸 (福岡大) 増岡 隆士 安田 嘉明 (九工大) 松本 健一 (久留米高専)	1987.3.31		

15. 2	ユーザ定義文字のNLP出力支援プログラムの開発	国宗 真 (福女大) 吉田 和幸 (大分大・工) 江口三代一 (九大・情教セ)	1986. 4. 1 } 1987. 3. 31	300分	継続
15. 3	日本語推敲支援ツールの高速化と拡張	牛島 和夫 尹 志熙 荒木啓二郎 高木 利久 (九大・工)	1986. 4. 1 } 1987. 3. 31	60分	継続
15. 4	Prosidユーザのための支援ツールの開発	後藤恵之輔 森 正寿 (長崎大・工)	1986. 4. 1 } 1987. 3. 31	240分	継続
15. 5	分子軌道計算プログラムシステムJAMOL 3の移植とモデルポテンシャル関数の組み込み	酒井 嘉子 (九大・教養) 三好 永作 (福 歯 大)	1986. 4. 1 } 1987. 3. 31	240分	継続
15. 6	形状モデラGEOMAP IIIの移植	長沢 勲 大曲 五男 (九大・工)	1986. 4. 1 } 1987. 3. 31	240分	継続
15. 7	3次元固有関数系の節曲面の特異点探索アルゴリズムの開発	大脇 信一 (熊大・教養)	1986. 4. 1 } 1987. 3. 31	60分	継続

(ライブラリ室 電 (内) 2523)

4. 新規に登録されたライブラリについて

題 目	形 式	作 成 者	参考文献
データセットバックアップ支援ツールMTUNLOAD	コンプリート	九大・理 水野 裕重	下記文献1

MTUNLOADは、自分の登録番号に属するデータセットを、ディスクやMSSからMTにバックアップしたり、逆にMTからディスクやMSSに復元するためのジョブ制御文を容易に作成できるように支援するユーティリティです。これは、以下のような特徴を持っています。

- 1) 対象データセットの選択が詳細にできる
- 2) MTに関する属性の指定ができる
- 3) バックアップ時のデータセットポジションの指定ができる
- 4) バックアップ時のデータセットに関する詳細なドキュメントの出力ができる

使用についての詳細は、文献 [1] を参照してください。

参考文献

1. 水野 データセットバックアップ支援ツールMTUNLOADについて、九大大型計算機センター広報, 19, 2, 1986, 131-142.

(ライブラリ室 電(内) 2523)

5. SSL II / VP の FFT (高速フーリエ変換) ルーチンにおける障害について

メーカーからの通知により、表1に示すルーチン(ベクトル版)を使用したジョブで、結果を保証できない場合が発生する障害のあることが判明しました。この3ヶ月間(61年1月13日~3月28日)に該当ルーチンを使用された方は、センター側で再計算をいたしますので、センター受付(内線2520)へ申告してください。申告期限は5月7日(水)までといたします。

なお、該当ルーチンを使用しても必ずしもこの障害が発生する訳ではありませんし、スカラ版SSL II のFFTにはこの障害はありません。

新年度4月7日(月)からは、正しい版に置き換えて運用しています。

表1. 障害のあったSSL II / VP プログラム一覧

該当ライブラリー・プログラム名	障害発生条件
CFTM : 複素フーリエ変換(混合基底)	nの因数に4を含む
DCFTM : / (倍精度ルーチン)	nの因数に4を含む
CFT : 複素フーリエ変換(8基底)	n > 512
DCFT : / (倍精度ルーチン)	n > 512
CFTN : 複素フーリエ変換(8基底)	n > 1024
DCFTN : / (倍精度ルーチン)	n > 1024
CFTR : 複素フーリエ変換(8基底)	n > 512
DCFTR : / (倍精度ルーチン)	n > 512
PNR : ビット反転	n > 512
DPNR : / (倍精度ルーチン)	n > 512
VCFT1 : 複素フーリエ変換(2基底, 性能優先型)	n > 16. n ≠ 2 ¹⁰ , 2 ¹¹
VRFT1 : 実フーリエ変換(2基底, 性能優先型)	n > 32. n ≠ 2 ¹¹ , 2 ¹²
VCOS1 : cosine 変換(2基底)	n > 32. n ≠ 2 ¹¹ , 2 ¹²
VSIN1 : sine 変換(2基底)	n > 32. n ≠ 2 ¹¹ , 2 ¹²
VCFT2 : 複素フーリエ変換(2基底, メモリ節約型)	n > 16. n ≠ 2 ¹⁰ , 2 ¹¹
VRFT2 : 実フーリエ変換(2基底, メモリ節約型)	n > 32. n ≠ 2 ¹¹ , 2 ¹²

(ライブラリ室 電(内) 2523)

6. 昭和61年度利用者旅費について

本年度の出張利用による利用者旅費は、次のとおり取り扱いします。

1. 利用期間 昭和61年4月1日～昭和62年3月31日
2. 利用者の出張期間及び旅費支給基準

地区	出発地	出張期間	日当	宿泊	備考
1	北海道	6泊7日以内	円 1,100	円 5,200	センター内利用 期間3日以内
2～6	東北、東京、名古屋、 京都、大阪、四国等	4泊5日以内	円 1,100	円 5,200	〃
7	鹿児島、宮崎、沖縄	3泊4日以内	円 1,100	円 5,200	〃
7	広島、山口、大分、長崎 熊本	2泊3日以内	円 1,100	円 5,200	〃
7	上記以外の地域 (佐賀、北九州等)	日帰り	円 1,100	円 —	〃

- イ. 旅費の支給基準は、文部省所管旅費規則に定めるところにより、運賃は、普通料金とします。ただし、鉄道賃は片道50Km以上の場合急行料金、片道100Km以上の場合特急料金を支給します。日当・宿泊費については、上表金額で打切りとします。又、旅費の支給は、すべて精算払です。
- ロ. 利用者は、連絡所に備え付けの出張利用申込書により、連絡所を經由してセンター長宛に提出してください。なお、申込書には、必ず登録番号を記入し、出張利用予定日の2週間前にセンターへ必着するように送付してください。
- ハ. 科学研究費交付金支弁による利用者には、旅費の支給はしません。
- ニ. 出張利用は、申請者本人に限りますので、代理者の出張利用は認めません。
- ホ. 宿泊所の斡旋はしませんので、各自で手配してください。

3. その他

出張利用申込書の提出をもって、旅費支給の承認をされたことにはなりません。本センターで審査した上該当者には、後日、出張依頼書を連絡所宛に送付します。ご確認の上、必要書類を提出してください。

なお、旅費予算の制約もあることから、出張期間の短縮を含め調整する場合がありますので申し添えます。

7. プログラム相談時間の変更について

4月14日から9月30日まで(夏期休暇期間を除く)、下記のとおり相談時間に変更になりますのでお知らせします。

記

月曜日 14時 ～ 16時
火曜日 ～ 金曜日 10時 ～ 12時, 14時 ～ 16時

8. M S S の貸出ボリュームについて

昭和61年度よりM S S の貸出ボリュームが、今までの1 課題2 ボリュームから1 利用者につき5 ボリュームまでに、変更になりましたのでお知らせします。

9. I N S P E C 収録雑誌データベースの更新について

4月8日にINSPEC 収録雑誌データベース INSPEC-J を1986年版に更新しました。収録雑誌数は5,021で、1985年版に比べて309 増えています。

参考文献

1. AIRによるINSPEC 収録雑誌データベース (INSPEC-J) の検索について、九大大型計算機センターニュースNo.322。

(データベース室 電(内)2510)

10. I C A D 講習会の開催について

標記講習会を下記の要領で開催いたしますので、受講希望は、共同利用掛(電(内)2505)にお申し込みください。なお、募集定員に達し次第締切ります。

記

- ・ 日 時 5月15日(木) 10時 ～ 16時
- ・ 対 象 C A D (計算機支援設計) に興味をもつ利用者
- ・ 募集人員 30名
- ・ 会 場 大型計算機センター・多目的講習室(3階)
- ・ 内 容 設計・製造支援システム I C A D の解説と実演
- ・ 講 師 富士通 I C A D 講習会講師
- ・ テキスト センターで用意
- ・ 時 間 割

10:00

12:00 13:30

16:00

I C A D 入門(1)	実演(1)	昼 休 み	I C A D 入門(2)	実演(2)
------------------	-------	-------------	------------------	-------

- ・ 申し込み期限 5月7日(水)